

第6回「地域フォーラム」概要

開催テーマ 「誰もが健やかに暮らせる地域づくり」

日時 平成30年10月14日(日) 14時00分～16時00分

会場 三宅町文化ホール

資料説明	荒井奈良県知事
	<p>ベッドタウンとして発展してきた奈良県は、他府県と比べて人口減少や高齢化が急速に進んでいます。このような状況の中、どのような人口構造になっても、健康に暮らせるよう、奈良県では健康寿命日本一を目指しています。</p> <p>健康寿命を延ばすためには、県民自らが、年齢や健康度に合わせた健康行動をとる必要があります。バランスの良い食事、適度な運動、適切な社会行動の3種類の健康行動を促進しています。バランスの良い食事に関する取組では、こども食堂等で県産食材を活用した「美味(おい)しい食事」を提供する仕組みの構築を目指しています。適度な運動に関する取組では、「まほろば健康パーク」の機能強化のほか、奈良県立大学等でシニアカレッジを開講し、大盛況となっています。適切な社会行動に関する取組では、各地に健康ステーションを設置し、「おでかけ健康法」の普及に努めています。</p> <p>一方、救急搬送受入体制の改善や県立病院の再編整備等、医療提供体制の整備も進めています。また、住まいを中心に医療・介護・生活支援サービスが行き届くよう、地域包括ケアシステムの構築を目指しています。さらに、医療保険の安定経営に向けた取組として、国民健康保険の県単位化、医療費適正化等を推進しています。</p> <p>今後も、「誰もが健やかに暮らせる地域づくり」を、市町村と協働しながら積極的に行っていきたいと考えています。</p>

資料説明	上田大和郡山市長
	<p>大和郡山市では、医療と介護の両方が必要となることの多い高齢者が、安心して住み慣れた地域で暮らすことができるよう、顔の見えるネットワークづくりを進めています。</p> <p>行政、訪問看護ステーション、医療機関、ケアマネジャー等の関係機関が情報共有・連携して入退院時の調整ルールを決めることで、退院後の在宅療養の不安を減らすよう努めています。</p> <p>今後も、こういったネットワークづくりをさらに進めていきたいと思えます。</p>

資料説明	竹村川西町長
	<p>川西町では、作ること・食べることの大切さについて、各年齢に応じた内容で食育指導をしています。</p> <p>効果的な啓発として、地元スーパーに協力を依頼して、野菜たっぷりの減塩みそ汁の試食や、調味料を25%カットした総菜の販売等を実施しました。また、住民主体の「通いの場」として、身近な公民館等で自主体操グループの立ち上げや活動支援にも取り組んでいます。若い頃からの食育や健康づくりを各地域で行うことが健康長寿につながると考</p>

えています。

資料説明	森田三宅町長
<p>三宅町では、幼少期からの健康づくりで健康寿命を延ばす取組を行っています。</p> <p>音楽に合わせて体を動かす「親子リトミック教室」や、朝と放課後に陸上競技を行う「三宅陸上クラブ」等で非常に活気のある活動を行っています。また、高精度体組成計等を活用して、効果の見える化を図っています。さらに、特定健診について、受診勧奨を丁寧に行うことで、受診率が県内で3位という結果が出ています。</p> <p>今後も健康寿命の延伸に繋がる取組を推進したいと考えています。</p>	

資料説明	森田原本町長
<p>田原本町では、適度な運動、適度な社会活動、特定健診とがん検診の受診率上昇に向けた取組をすることで、健康寿命の延伸を目指しています。</p> <p>今年度から、健康づくりの習慣化、閉じこもりの予防、フレイル(身体機能や認知機能が低下して虚弱となった状態)予防を目的に、健康ポイント事業を始めました。また、特定健診とがん検診を同時に集団で実施するセット健診を行っています。</p> <p>今後も、さまざまな取組を通して、健康寿命の延伸につなげていきたいと思ひます。</p>	

意見	荒井奈良県知事
<p>地域で健康づくりに取り組む際は、ターゲットを絞って行動目標を設定することが大事です。地域間で競争することで、奈良県全体の健康づくりにもつながっていくと思ひます。</p>	

質疑応答①	誰もが高齢になっても健康であり続けるために、県や田原本町では今後どのように取り組まれますか。(田原本町在住者)
<p>(森田原本町長)</p> <p>今年度から、70歳以上の高齢者等を対象に、タクシーの初乗り運賃を補助する事業を実施しています。移動手段を確保し、社会活動や健康事業に出かけてもらうことで、健康寿命の延伸につなげていきたいと考えています。</p> <p>(荒井奈良県知事)</p> <p>現在、生命保険会社で、被保険者の健康行動をデータで把握し、健康行動が多い被保険者の保険料を下げる取組をされています。こういった健康行動に結びつくインセンティブをどのように作り出すかが今後の課題です。</p>	

質疑応答②	一人暮らしの高齢者を社会的な孤立から脱却させるために、どのように取り組まれていますか。(大和郡山市在住者)
<p>(上田大和郡山市長)</p> <p>社会とつながりを持たない高齢者の支援を担う人材をどう育成するかが、今後の大きな課題だと思います。今年度、モデル事業として地域包括支援センターを公民館に設けました。このような「場づくり」ととともに、「人の輪づくり」を進めていきたいと思いません。</p> <p>(荒井奈良県知事)</p> <p>社会や地域での福祉の取組を進める「コミュニティーソーシャルワーカー」を応援することが、行政の役割として重要だと考えています。</p>	

質疑応答③	最近、在宅医療と介護の連携という言葉をよく聞きますが、県や三宅町ではどのように取り組まれていますか。(三宅町在住者)
<p>(森田三宅町長)</p> <p>現在、医療・介護関係者等、多職種による研修会の開催や、中和保健所が中心となって入退院調整ルールを策定し、高齢者が安心して入退院できる環境づくりに取り組んでいます。また、ケアマネジャーや医療専門職のための相談窓口として在宅医療支援窓口を開設し、医療・介護連携の支援を行っています。</p> <p>(荒井奈良県知事)</p> <p>自宅療養の場合、訪問看護や訪問介護、在宅医療が必要になりますので、訪問看護師や在宅医療に取り組む医師を充実させていきたいと思えます。</p>	

質疑応答④	「食」は全ての生活の基本であり、喜び、楽しみでもありますが、力を入れている食育の取組について教えてください。(川西町在住者)
<p>(竹村川西町長)</p> <p>川西町は県平均と比べて生活習慣病の比率が高いので、野菜摂取や減塩対策等の食育を進めています。特に若年層にターゲットを絞った食育を進めており、「食」について考えてもらう機会を設けて、さまざまな形で広報活動を行っています。</p> <p>(荒井奈良県知事)</p> <p>学校給食やこども食堂等で新鮮な県産食材を活用した「美味しい食事」を提供する仕組みを構築して、子どもの頃からの食環境づくりを進めています。</p>	